

Finding Science and Shaping Technology through the Gender Frame 報告書

武井史恵 (SJWS)

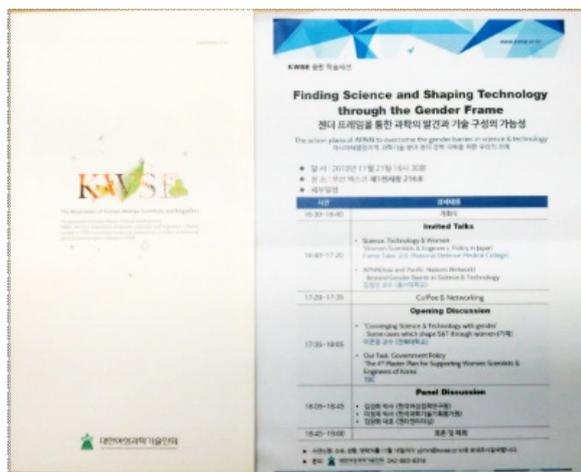


日時：平成 30 年 11 月 21 日

会議名：Finding Science and Shaping Technology through the Gender Frame

会場：Bexco, Busan, Korea

11月21日に韓国・釜山で行なわれた Finding Science and Shaping Technology through the Gender Frame (主催 KWSE : The Association of Korean Women Scientists & Engineers) に参加し、韓国と日本の理工系分野におけるジェンダー問題について意見交換を行った。日本からは私 1 名の参加であった。私は最近問題になっている、女子学生の医学部の入学試験についての報告と、最近の理工系の女子学生を増やす取組について紹介した。現在日本では、幸か不幸か労働力不足を背景に国が女性総活躍を唱え、そのために女性の社会進出のサポートが増え、少しずつだが理系の女子の人数も増えてきている現状も説明した。



韓国側からは 5 名の発表があった。Dongseo University の Kim Jung Sung 教授が韓国、日本を比較して詳細について説明された。日本と同様に韓国でも女性の社会進出は他国と比べ遅れているが、両国ではその理由に大きな違いがある。韓国では女性が理工系大学に進学した後、その知識を活かした職に就けず社会進出が阻まれている。国の政策として日本よりすすんだ様々なポジティブアクションはあるが、それをも阻む背景には男女問わずの就職難があるという話があった。韓国国内では就職が出来ず、日本や他国での就職も余儀なくされているようである。国の文化、歴史、そして考え方が違えば、解決する問題、解決方法も全く違ってくることを改めて認識した。討論会では若い人の意見を聞く機会もあり、優秀な若い人たちの本音を聞くこともできた。今まで国際的なジェンダー問題について考える機会はなく、各国の取り組みについても知る機会はなかったが、意見交換するに従ってそれぞれの国の背景に応じて、その国にあった解決法を見いださなければならないということを再認識した会議であった。